

きずな

2013年 8月 1日

NO942

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (TEL 62-6200)

敵基地攻撃能力を検討 新「防衛大綱」へ中間報告

防衛省は7月26日、日本の軍事政策や軍事力の規模などを定める新「防衛計画の大綱」に関する中間報告を発表しました。北朝鮮を念頭に「弾道ミサイル攻撃への総合的な対応能力を充実させる必要がある」と強調。この記述について同省は「打撃力も検討の対象に入っている」と説明し、戦闘機やミサイルなどで敵の発射基地をたたく「敵基地攻撃能力」の保有を検討する姿勢を示しました。

敵基地攻撃能力の保有は、歴代政府が日本国憲法の平和原則の下で建前としてきた「専守防衛」を踏み外し、日本の軍事政策の重大な転換となります。

中間報告はさらに、「島しょ部攻撃への対応」を口実に、自衛隊の「海兵隊的機能」の整備を明記。海から敵地にも上陸侵攻できる“殴り込み”部隊化を打ち出しました。日本領域外での情報収集・警戒監視のため、米無人偵察機グローバルホークのような「高高度滞空型無人機」の導入も検討するとしていました。

中間報告はこのほか、自衛隊の海外派兵拡大のため一般法（恒久法）検討の必要性を強調。治安維持や警護任務など、武器使用を伴う活動に将来参加するための態勢の検討を明記しました。



武器禁輸原則（武器輸出三原則）もいっそう緩和する方向を打ち出しました。

「防衛計画大綱」中間報告 安倍・自公政権は今年1月、民主党政権が2010年に策定した「防衛計画の大綱」の見直しを決定。年末までに新たな大綱を策定するため、防衛省が検討作業を続けています。中間報告はその一環で、省内に設置された「防衛力の在り方検討委員会」がまとめました。

しんぶん赤旗より

この「きずな」は森本らみお議員のブログ (<http://m.okajcp.com>) でも見れます

読者ニュース「きずな」に対するご意見や情報をしんぶん赤旗の配達・集金者にどしどしお寄せください。

出演者も自共対決注目

共産党躍進の理由 穀田氏語る テレビ番組

日本共産党の穀田恵二国対委員長は7月28日放送の読売テレビ番組「たかじんのそこまで言って委員会」に出演し、民主党の松原仁氏、維新の中田宏氏とともに参院選結果について討論しました。

参院選で日本共産党が躍進した理由について穀田氏は「自共対決 抜本的対案」と提示しました。“委員”（パネリスト）の田嶋陽子氏は「一貫して国民目線に立っている」、宮崎哲弥氏は「『賃金上げるべきだ』と明確に主張」したからだと述べ、金美鈴氏は「民主党への失望がぶれなかった共産党へいった」と評価しました。

ゲストの橋本五郎氏が「なんでもぶれなきゃいいのか。自共対決というが65対8。対決じゃない」と攻撃したのに対して、穀田氏は「数字の話ではない。政策的対決だ」と反論。自民党は消費税増税や原発問題、TPP（環太平洋連携協定）などの争点について選挙公報にも掲げられない県があるなど政策を語れない一方で、共産党はアベノミクス反対、原発ゼロ、憲法改悪やTPPへの反対と同時に対案を示してたたかった「自共対決」だったと話しました。



低投票率について、穀田氏は「選挙制度が民意を反映しない現実がある」と指摘。小選挙区制度では“死票”が5割を超えること、マニフェストが裏切られ続けている現状を指摘し「選挙制度が民意をきちんと反映するようにすべきだ」と語りました。

「そう思う」と賛同したパネリストの宮崎哲弥氏は「小選挙区のもとで投票率を上げるためには風を吹かさないと無理。風頼みがいいかどうかは、もうはっきりした」と話しました。

「しんぶん赤旗より」